Community Medicine
── 地域医療の架け橋 ──

つばさ

2018年1月発行

第54号

独立行政法人地域医療機能推進機構
神戸中央病院
〒651-1145
神戸市北区惣山町２丁目１－１
TEL　078-594-2211
FAX　078-594-2244
http://kobe.jcho.go.jp/

地域の皆さまに信頼される病院として
安全で質の高い医療を提供します。

新年のご挨拶

院長　大友敏行

新年明けましておめでとうございます。

昨年末の流行語大賞には「インスタ映え」が選ばれました。皆さんもご存じのとおり SNS 上で見栄えのいい写真という表現ですが、ただそれだけではありません。今や写真に取り上げられた情報は世界中で評価され、評価者の行動にも結び付いているからです。百聞は一見に如かずということの現代版なのでしょうか。でも私はちょっと違う気がします。故事の言いたいことは、聞いた話で物事を判断するべきでなく実際に見てみるとよく理解できるという意味です。同じようですが、そこに省略されている「現場で見てみる」ということが本来一番大切なことではないかと思うからです。

SNS に限らず最近のスマホ社会では仮想現実はあっても現場はないことが多いようです。実は現場は今もどこにでも存在しています。当院においても外来で、病棟で、手術場でこの時間帯も人々の奮闘が続いています。病気の方や体調の悪い御家族を支えておられるご家庭でも様々な現場があることでしょう。

地域包括ケアに力を注ごうとする我々は、その現場を知ることから始めねばなりません。少し離れただけでもまるで違う隣の現場をよく知ることが大切です。

今年は戌年ですね。犬も歩けば棒に当たるとは、でしゃばると思わぬ災難にあうという戒めでもありますが、また、転じて全く逆の意味で、じっとしていないで何でもいいからやってみれば思わぬ幸運にあうことのたとえで使われています。当院では訪問看護部門だけでなく、介護老人保健施設でも在宅復帰を目指すため自宅への訪問が積極的に取り入れられています。地域連携室もできるだけ部屋から出て、地域の先生方の仕事場を訪問するなどして同じ初夢を見ることができるようにしたいと思っています。

本年が皆様方にとり、幸多い一年となりますようお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

退任医師のお知らせ

小　児　科：白浜　素子

年男ご紹介

藤井　光広　：糖尿病内科

新年、明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

玉田　博　：泌尿器科

あけましておめでとうございます。医師としてさらに成長していきたいと思っています。

岡本　将裕　：放射線科

新年あけましておめでとうございます。早いもので４回目の年男を迎えることとなりました。今後も少しでも皆様のお役に立てるよう日々精進していきたいと想います。

荻野　浩嗣　：呼吸器内科

新年おめでとうございます。よき新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

小別所　博　：神経内科

あけましておめでとうございます。当院に赴任して７年目をむかえます。雪の中を走り回る犬のように楽しく軽快に仕事をしたいと思います。今年もよろしくお願いします。

太田　矩義　：腎臓内科

あけましておめでとうございます。これからも患者さんの利益を一生懸命に追求したいと思います。

次回予告　第13回 JCHO神戸中央病院 市民医療セミナー

テーマ「心臓・血管の最新の治療」（仮題）

担　当：循環器内科医師　　日　程：平成30年6月9日（土）13時～

会　場：すずらんホール（神戸市北区鈴蘭台西町1丁目26－1）

第12回JCHO神戸中央病院　市民医療セミナー開催の様子

眼科　細谷 比左志 先生

当日は、多数の方々に御参加いただきありがとうございました。風邪のため、声が出にくくお聞きづらかったかとは思いますが、最後まで熱心にお聞きいただきありがとう存じます。今回は白内障と緑内障という皆様にとり身近な病気を取り上げました。少しでも御参考になりましたら幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

歯科口腔外科　松本 耕祐 先生

たくさんの方にお集まりいただきありがとうございました。健康寿命を延ばすことが大きな課題である近未来の高齢化社会において、オーラルフレイルを早期に発見していただく重要性をお話しました。皆様の健口寿命を延ばすためにお役に立てることがございましたらお気軽にご相談にきてください。

「地域包括ケアシステム」　⑤高齢者の認知症ケア

2004 年厚生労働者は「痴呆」から「認知症」に改称しました。「痴呆」という用語が侮蔑感を感じさせる表現であり、また「痴呆になると何もわからなくなる」という誤解や偏見の原因となり、認知症のある方への尊厳を持った関わりや早期発見・早期診断の妨げになることからです。

今日、認知症を患うということは、長い老いの過程において、国民の誰もが他人事では終わらず、自分の親や祖父母、いずれは自らもたどる道となるかもしれません。

認知症の症状には記憶の障害をはじめ多くの障害があります。しかし、症状でその人の尊厳や今まで生きてきた人生が失われることはないと考えます。認知症の症状や経過は、生きてきた人生や生活習慣、生活環境でも異なります。

高齢者の場合、認知症の症状に加え、身体的な加齢の変化があると言うことも忘れてはなりません。日常の生活を継続するためには、家族だけではなく、周囲の人々の目や手を借りることが必要になります。認知症のある方の周囲にいる人々すべてが大切な環境であり、私たちの関わり方次第で症状は良くもなり悪くもなります。「やらない、できない」のではなく「できにくくなっている」と捉え、認知症のある方のできることに目を向けて日常の生活を支援することがケアの本質と考えます。

ケアの考え方の一つにパーソン・センタード・ケアがあります。

1. 認知症をもつ人たちとケアにたずさわる人たちの価値を認めること
2. 個人の独自性を尊重し、関わること
3. 認知症をもつ人たちの視点から世界を見ること
4. 心理的ニーズを満たし、相互に支え合う社会環境を提供すること

認知症のある方が生きている世界、時間に寄り添うことでその人らしさを見つけ出し、住み慣れた地域で馴染みの人たちと普通の暮らしが継続できるような地域づくりが必要です。

認知症看護認定看護師　西田　珠貴

最新鋭64列128スライスCTを導入

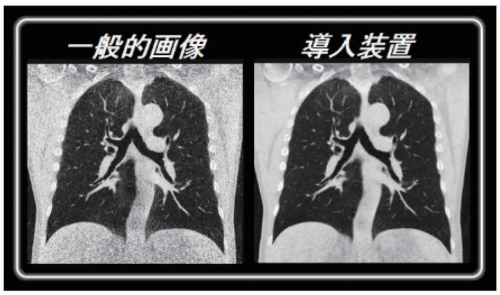
放射線科診療部長　岡本　将裕

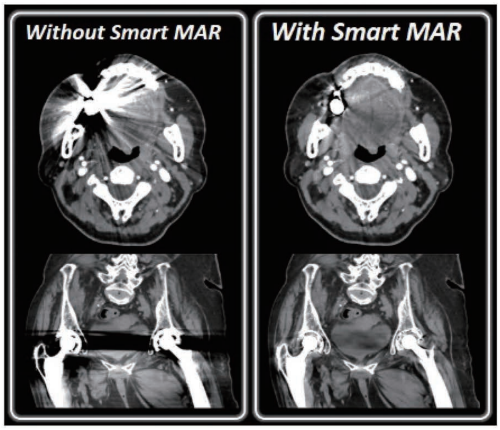
当院は CT の更新に伴い、最新鋭の 64 列 CT 装置（米国 GE 社製 Revolution EVO EL）が２月下旬より新たに稼働開始します。本導入装置は最新鋭のハードウエアとソフトウエアを搭載し、従来の課題であった X 線被曝を大幅に低減させ、かつ診断画像の高画質化が図られています。

被曝低減に関して、フルデジタル検出器や逐次近似画像再構成法などにより、被曝線量を軽減させた CT 検査が可能となります。また、従来では X 線吸収が高く画像劣化が生じていた肺尖部や骨盤部、更にはご高齢の患者様で検査時に両手を挙上出来ない場合などの画像劣化を大幅に低減します。そのことで、より安全性を高め、リスクを低減しながら質の高い CT 検査を提供することが可能となります。

高画質化として上記に加え、義歯やインプラント、人工骨頭などの金属から生じるアーチファクトを大幅に軽減させる最新アルゴリズムを搭載しており、従来では評価が困難であった金属周囲の評価や術後の観察などが可能となります。

心臓 CT 検査では、最新鋭ベクトル演算処理を用いた冠動脈静止アルゴリズムにより、ご高齢の患者様でも成功率の高い冠動脈 CT をご提供することが可能となります。





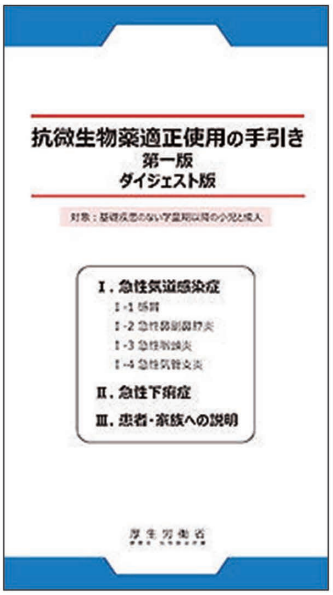
メディカルライン

《医療機関向け》

総合内科部長　桂　敏明

薬剤耐性（AMR）アクションプランを踏まえて

総合内科診療において感染症が占める割合は高く、呼吸器、尿路、皮膚軟部組織などの細菌感染症治療に従事しています。細菌感染症の診療に際し常に考えることは、①どのような種類の細菌が、②どの臓器に、③どのような感染症を生じているので、④どのような治療（抗菌薬の選択やドレナージなど侵襲的治療の適否）を行うか?ですが、常に耐性菌による感染ではないか?という点が頭を悩ませます。例えば、腎盂腎炎は ***E.coli*** などの腸内細菌属が主たる起因菌ですが、レボフロキサシンに代表されるキノロンに耐性を有した ***E.coli*** の頻度は増加しており、**ESBL *E.coli*** も少なくありません。**VRE**、**MDRP** などの耐性菌も決して珍しいものではなくなってきています。このような現状に関して、2016 年の G7 伊勢志摩サミットでも薬剤耐性（AMR）対策アクションプランが報告されました。また、2017 年には AMR についての一般向けの啓蒙ポスター（図 1）や、抗微生物薬適正使用の手引き（図 2）も発表されました。アクションプランの達成目標としては、『2020 年の人口千人あたりの一日抗菌薬使用量を 2013 年の水準の 3 分の 2 に減少させる』『2020 年の経口セファロスポリン系薬、フルオロキノロン系薬、マクロライド系薬の人口千人あたりの一日使用量を 2013 年の水準から 50%削減する』『2020 年の人口千人あたりの一日静注抗菌薬使用量を 2013 年の水準から 20%削減する』などの項目が挙げられています。単純に考えると、現状と比較して経口抗菌薬の処方を 3 分の 2 に、点滴での抗菌薬投与を 8 割にしなければならないので、より抗菌薬の適応に関して、厳密な判断が求められることになります。日々の感染症診療において、常にこのことを意識しながら望みたいと考えております。



第8回「神戸市北区医師会・JCHO神戸中央病院　医療連携セミナー」のご案内

テーマ：「皮膚科」と「小児科」の診療の現在 in JCHO 神戸中央病院

日　時：平成 30 年 2 月 15 日（木）19 時～20 時 10 分　　場所：当院　2 階会議室

特別講師による講演予定（平成30年1月～4月）　場所：当院　2階会議室

日　時		講　演　内　容	講　師
4月12日（木）	19時00分より	北神ストロークカンファレンス 超急性期脳梗塞治療の最新情報 ～血栓回収療法を中心として～（仮題）	国立循環器病研究センター 脳卒中集中治療科医長 山上　宏 先生